

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年12月実施分]

○回答率は保護者 180 名 69% (昨年度 68%)、児童生徒 179 名 69% (昨年度 69%)、教職員 88% (昨年度 80%)

【児童生徒】

- ・「先生は、話を聞いてくれますか」「先生は、やさしいことばづかいで話をしてくれますか」の問いでは7割が「はい」、と答えており、今後も児童生徒の安心につながる教育を行っていきたい。
- ・「授業でタブレットを使うことがありますか」の問いでは74%が「はい」、1.0%が「いいえ」と答えており、昨年度に続き授業において活発に活用している状況がうかがえる。

【保護者】

- ・「教職員は子どもたちに対して適切なことばがけができています」「学校は、子どものことについて、保護者の悩みや相談に適切に応じています」等、24問中14問が肯定的回答率8割以上で、そのうち11問が「よくあてはまる」が5割以上であった。
- ・「学校の様子を授業参観・連絡帳・便り・ホームページ等によって知ることができる。」の肯定的回答率9割以上であるが、「学校のホームページをよく見る。」の肯定的回答率が6割以下となり、更新時にメールで連絡しているが、閲覧につながっていない状況であり、情報発信の在り方を検討する必要がある。

【教職員】

- ・肯定的回答率80%以上が41問中40問と好結果であり、教職員が教職員間で連携しながら、日々の教育活動を行っていることがうかがえる。
- ・「よくあてはまる」が5割以上であった11問には、児童生徒や保護者、関係機関との連携の内容及び、児童生徒、保護者の肯定的評価にもつながっているように考えられる。
- ・PTA活動への参加の肯定的回答率75%であったので、PTAと連携した取組みの検討が課題である。